

学校名

鹿児島県立与論高等学校

実施単元

単元名	学年	教科
1. 地域の課題を通して課題研究の素地を身につける	1	総合的な探究の時間
2. 他の国内地域や世界と比較して研究を進化させる	2	総合的な探究の時間
3. 研究内容を研究概要としてまとめる	3	総合的な探究の時間

取り組みの概要

与論高等学校では総合的な探究の時間「ゆんぬ」を中心に、全学年がそれぞれ探究活動に取り組んだ。海洋教育パイオニアスクールプログラム終了後の最初の年度となる本年度は、昨年度までの活動を踏まえつつ、探究活動のより一層の充実を目指して取り組んだ。生徒はグループや個人での活動を通して、地域の課題を考え、フィールドワークやアンケート等を実施しながら探究活動に取り組んだ。

また、与論町海洋教育推進協議会と適宜連絡を取り、事業を円滑に進めた。本年度、与論高校全体の取り組みとして次のような活動を実施した。

(1) 探究シンポジウムの実施

年度初めの探究導入として、様々な領域で活動している地域住民及び大学スタッフと意見交換を行う「探究シンポジウム」を開催した。2部構成で行い、前半は6領域に分かれて対話ワークショップを行った。後半は、テーマを「ちょっと先を考えよう！私が願う未来 2030」と設定し、ワールドカフェ形式で議論を行った。本シンポジウムを通して、生徒は地域の現状や課題を知り、自分の研究テーマを考える機会を設定した。

(2) 中間ワークショップの実施

9月に、それまでの探究活動の報告と今後の取組内容について意見交換ができる場として中間ワークショップを実施した。1・2年生が11の研究領域に別れ、地域サポーターや大学スタッフから指導助言を受け、これまでの活動を振り返るとともに、今後の改善点やさらに探究を深める必要がある事柄などを知る機会とした。また、事前に参加者から募集したテーマ（13テーマ）でワールドカフェも実施し、与論島の課題等を話し合うことで、知識を深めると同時に、思考力や表現力を活かす場となった。



(3) 校内発表会の実施

12月に今年の探究活動のまとめの場として実施した。1年生はスライドを利用した発表、2年生はポスターセッション形式の発表を行った。中間ワークショップに続き、地域サポーターの方々を中心に外部の

方にアドバイザーとして参加していただいた。自らの活動の報告を行うとともに、他者の活動の成果を共有することで、地域の課題や解決策を共有できる機会となった。また、2年生は3月にも校内発表会を行い、12月以降の研究の進捗状況を代表の4グループが生徒全員の前で発表した。

(4) 外部での活動への参加

1月に実施された与論町海洋教育フェアで、代表の3グループが研究内容をスライドを使って口頭で、2年生は研究をまとめたポスターを会場に掲示し、来場者に今年度の研究成果を発表した。また、3月に大島高校で行われた奄美群島内高校生課題研究発表会に3グループが参加し、探究活動の成果を発表した。

(5) 東京大学サイエンスキャンプへの参加

東京大学大気海洋研究所が主催した8月のサイエンスキャンプに、与論高校2年生6人が参加した。「身近な水を科学する！」をテーマに、与論島内で採水し、分析結果をもとに与論島の水の循環など人と水のかかわりについて課題研究を続けている。研究の内容は、8月の与論町役場、9月の与論高校文化祭、ヨロン海洋教育フェア、奄美群島内高校生課題研究発表会などの発表機会や、定期的に発行する壁新聞を使って学校内外に発信している。

